

2024年

4月

# 南風

ふれあい南伊豆ホスピタル

第248号

● 当院では、患者様が地域で安心して暮らしていただける為の支援をすすめています ●

編集・発行 医療法人社団 辰五会 ふれあい南伊豆ホスピタル 〒415-0151 賀茂郡南伊豆町青市 848 TEL 0558-62-1461 FAX 0558-62-0510

## 今、改めて「老いること」、「認知症」とは？

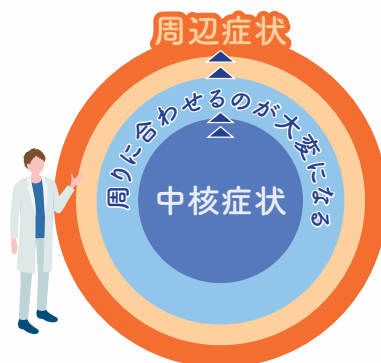
知識の更新（アップデート）の足がかりとして

臨床心理士・公認心理師  
神谷 正光

高齢化社会の今、認知症に対する理解も10年前と比べると進化・深化してきました。それだけ認知症が「身近な存在」として、私たちの生活の中に入り込んできていることの現れでしょう。とはいえ、未だに（記憶、見当識、注意などの低下という）中核症状と（その結果として表れる抑うつや迷惑行為などの）周辺症状という二分法や、（アルツハイマーなどの）〇〇型という病理的な捉えの域を出ず、認知症を抱える当事者の方々の「かゆいところに手が届かない」対応に留まっている現状もあります。

私が心理士として高齢の方々と関わらせていただく中で、加齢とともに社会生活を送るのが難しくなる要因の1つとして、「**周りに合わせるのが大変になる**」ことが挙げられると感じるようになってきました。

それは、記憶力などが低下した結果でもあり、迷惑行為などの原因とも言えるでしょう。ご自身の中ではつじつまが合っている、相手がいる場面ではうまくいかない、「違う、そうじゃない」と指摘されてしまうなどという結果につながってしまいがちになります。



こうした現象は認知症の有無と必ずしも一致するわけではないようです。加齢とともに人づきあいが希薄になったり、好奇心が薄れたりする背景にも、この「合わせるのがおっくう」という思いが潜んでいるかもしれません（体調がすぐれないという理由も考えられます）。

冒頭に述べたように、認知症が身近な存在になりつつある中で、高齢の方々の心理的な特性がなんでも「認知症の前ぶれ」と方向づけられているような危惧を抱くこともあります。ここで取り上げた「周りに合わせるのが大変」というのは、心身の機能が低下した（不調に陥った）ことの表れであり、それは**ある程度予防できるもの**であるという捉え方が広まってほしいと願っています。当院でもいろいろな角度からお手伝いさせていただきますので、お気軽にご利用ください。



「南風」「4月」の題字は、当院入院患者さまがリハビリ（作業療法）の活動中に毛筆で書かれたものを使用しました。

# 認知症地域連携セミナーが開催されました

2月21日（水）、この地域の高齢者医療・福祉の現場でお仕事をされている方々と当院の職員が集まり、事例検討会を行いました。

周囲の方々の目線では何らかの福祉的サービスによる支援が必要と思われるが、そこまで至っていない高齢の方にどうアプローチしたらいいかというケースを取り上げ、多職種がそれぞれの視点から意見を交換しました。

コロナ禍を経て、久しぶりの対面による集まりを実施することができましたが「一堂に会する」ことで醸し出されるものの力を改めて感じられるひと時でした。ご参加いただいた皆さまに感謝申し上げます。なおこの会は、当院の認知症疾患医療センターの主催で行われたものです。今後も当地域での認知症に関する総合的な支援の拠点として、関係機関の皆さまとの連携・交流に努めてまいりますので、ご協力のほど、よろしくお願い致します。



## Information

### 外来診療のご案内

月	火	水	木	金
内山	望月	休診	楠部	望月

診察時間 9:00～15:30 ※予約終了まで 当日受付 7:30～11:30  
(月曜日は10:00～)

水・土・日曜、祝日は休診です

お問い合わせ先

☎0558-62-1461

※4月より、木曜日の外来担当が望月院長から楠部医師になります。



色とりどりの春を楽しみましょう！

ふれあい南伊豆ホスピタル  
静岡県賀茂郡南伊豆町青市848



2024年4月発行 Vol.248

【監修】山本 善治

【構成・編集】神谷 正光

【デザイン】F&Y

【作業協力】支援センターふれあい

利用者の皆さん

ふれあい南伊豆ホスピタル

広報委員会